



笹小だより 5月号

令和8年 4月30日
横浜市立笹野台小学校



心かがやく笹小キッズ

校長 西山 久美子

桜の桃色で始まった令和8年度も、藤のうす紫色が美しい季節に移り変わりました。入学した1年生は、朝の支度や当番活動も上手にできるようになり、学校生活に慣れてきた様子です。今年の笹小が、着実に前へ進んでいることを実感する毎日です。

さて、4月の教室前には、「自己紹介カード」や「めあてカード」など、この時期ならではの掲示物が並びます。そこからは、「この1年間をがんばろう」という一人ひとりの思いが伝わってきます。

また、クラスを回っていると、新しい仲間や先生、新しい教室という環境の中で、緊張しながらも自分にできることに一生懸命取り組んでいる姿が見られました。その真剣な表情や前向きな姿から、子どもたちの輝く場面がたくさん見られる1年になるだろうと、大きな期待が膨らみます。

「自己紹介カード」より

- やさしい高学年になる
- あこがれられる高学年になる
- 信頼される高学年になりたい
- かっこいい高学年になりたい
- 友だちと仲よくする
- かけざんをがんばる
- 1年生にやさしくする
- なんでも挑戦する

そんな期待が、現実となっている場面に、この数週間で何度も出合いました。

その一つが「1年生を迎える会」。6年生と手をつなぎ、うれしそうに入場する1年生を、全校児童が笑顔と拍手で迎えました。実行委員の堂々とした司会、心のこもった代表児童のあいさつ、学校のよさを伝える笹小賛歌の歌声。さらに、1年生が安心して学校生活を送ることができるようにという思いを、行動で示す笹小の子どもたちは、まさに輝いていました。

下校時、小雨が降ってきた中で、傘をささずに歩いていた1年生にかけ寄り、自分の傘に入れてあげていた子。体育学習の後、疲れてしまったのか、廊下で座り込んでいた友達に、「一緒に教室に行こう。」と明るく声をかけていた子。欠席している友達の机を、率先してそろえていた子。日常の学校生活の中にも、きらきらと輝く心があふれていて、そんな光景に出合うたびに、笹小の子どもたちの幸せを祈る気持ちがこみ上げてきます。

すべての子どもたちに幸せであってほしい、幸せになってほしい。そのために、私たち大人は、今、何をすべきか、何ができるのかを常に問いながら、教育活動を進めていきたいと、改めて思った4月でした。

いよいよ緑のまぶしい5月。笹小キッズの「笑顔」と「一生懸命」が耀く姿が楽しみです。